

RSET第1回公開シンポジウム報告

平成 23 年 4 月 1 日に発足しました理工研究域サステナブルエネルギー研究センター（RSET）の第一回公開シンポジウムが、平成 24 年 2 月 10 日（金）に金沢市アートホールで開催されました。大学関係者、地方自治体や企業からの出席者に加えて、一般からの参加者を含めて約 220 名の方々の参加を頂きました。本シンポジウムでは、当センター5 部門の研究活動の報告を行うとともに、当センターの研究活動に関連した 3 件の特別講演を頂きました。今回のシンポジウムは、センター発足後の最初のシンポジウムであることから、当センターのアドバイザーボード 4 名の方々にもご出席頂き、翌日開催の部門アドバイザーボード会合の情報収集も兼ねての開催でした。



プログラムは、以下に示す通りです。

13 : 00～13 : 15	挨拶	金沢大学学長	中村信一
13 : 15～13 : 30	センター概要説明	RSET センター長	高橋光信
13 : 30～14 : 00	講演「真の復興に向けて ～自然と“共生”する社会」	(株) 倉本製作所代表取締役社長	鈴木 聡
14 : 00～14 : 15	有機薄膜太陽電池部門	部門長	高橋光信
14 : 15～14 : 30	自然エネルギー活用部門	部門長	木綿隆弘
14 : 30～14 : 45	炭素循環技術部門	部門長	瀧本 昭
14 : 45～15 : 00	休憩		
15 : 00～15 : 30	講演「電気エネルギーの現状と課題」	北陸電力（株）代表取締役社長	久和 進
15 : 30～15 : 45	エネルギー・環境材料部門	部門長	上杉喜彦
15 : 45～16 : 00	バイオマス利用部門	部門長	関 平和
16 : 00～16 : 30	講演「省エネルギーの観点から見た日本のエネルギーおよび 金沢大学の活動について」	(独) 産業技術総合研究所 理事	矢部 彰
16 : 30～16 : 45	挨拶	金沢大学理事	長野 勇



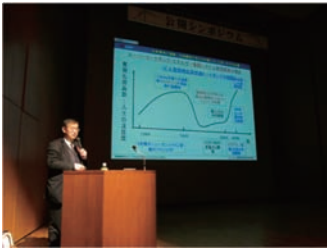
冒頭、中村信一金沢大学学長の挨拶では、当研究センター設立の意義と当センターが果たすべき役割への強い期待が述べられました。



特別講演1では、「真の復興に向けて ～自然と“共生”する社会」と題して、(株)倉本製作所代表取締役社長 鈴木 聡様から、ガラス基板上への機能性薄膜生成技術の紹介と東日本大震災後の「自然と共生する社会を実現するためのモノ作り」の代表として「有機薄膜太陽電池」を産学協同で取り組んでいることを紹介頂きました。



特別講演2では、「電気エネルギーの現状と課題」と題して北陸電力(株)代表取締役社長 久和 進様より、国内外の電気エネルギーの現状を紹介して頂くとともに風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーの現状とその電気エネルギーとしての特性、さらにはこれらの再生可能エネルギーを電力系統へ大量導入したときの技術的課題について説明頂きました。



特別講演3では、「省エネルギーの観点から見た日本のエネルギーおよび金沢大学の活動について」と題して、(独)産業技術総合研究所 理事 矢部 彰さまより、ヒートポンプなどのエネルギーシステム開発を例にして、技術開発における「死の谷」を克服するための方法論や社会技術の重要性を熱く語って頂きました。また、技術開発におけるロードマップの重要性から当センターの研究に対して、「エネルギーと暮らし」を重視した「地産地消対応型エネルギーに関する研究開発」を中心に進めることが重要であるともアドバイスを頂きました。

最後に、長野金沢大学理事から特別講演を頂きました3名の方々への感謝が述べられ、今後の当センターの研究活動への期待する言葉で閉会となりました。

本シンポジウムの講演で用いました当センター5部門の研究概要ならびに特別講演3件の発表資料は、当センターホームページに掲載予定ですので、ご参照ください。

上杉喜彦記